

市長対話集会「笑顔のふれあいトーク」開催結果概要

団体の名称	すみよいくろほねをつくる会
日 時	令和2年7月17日（金） 午後6時00分～午後7時00分
会 場	黒保根支所 2階研修集会室
テ ー マ	①黒保根の少子化について ②小中一貫校について ③黒保根地域の事について

<内容>

- 1 開会
- 2 代表者あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 議題
 - (1) 黒保根の少子化について
企業誘致・住宅の入居制限の見直し
 - (2) 小中一貫校について
開校時期・住民説明会の有無等
 - (3) 黒保根地域の事について
高齢者のバス運行等黒保根の少子化について

■意見交換内容

意 見	黒保根の少子化について、水沼定住促進住宅には依然として空きがあるので、若い人たちを黒保根地域に呼び込むことができるよう、入居要件を緩和するなどしてほしい。 また、定住促進のためには、企業誘致も重要と考える。
市 長	水沼定住促進住宅については、市外から人を呼び込むために整備したものであり、東京都内で開催した移住イベントで PR したが、なかなか入居に結び付いていない状況である。そのため、昨年条例を改正し、収入等の入居要件を緩和したところである。 今後の様子を見ながら、市外から人を呼び込むことに加え、市外に出ていかないようにするための施策として、水沼定住促進住宅の入居要件の緩和も含め検討したい。また、現在、黒保根支所の職員や地域おこし協力隊によるプロジェクトチームを設置するなど、支所全体で入居者募集に取り組んでいるので、地域のみなさんも協力してもらえるとありがたい。

	<p>また、企業誘致ということでは、黒保根地域の水、自然資源を活用した飲料水製造や精密機械の製造メーカー、データ解析センター、薬科大学など、一つ一つ働きかけを行いながら可能性を検討したいと考えている。</p>
市 長	<p>先に説明を行うが、議題にある黒保根小中一貫校について、教育委員会では義務教育学校の形態の一つである施設一体型の学校とすることを目指し、検討を進めている。</p> <p>その中では、地域の特色を生かした教育をコンセプトに検討を進めており、特に、英語教育の充実については、西町インターナショナルスクールとの交流をはじめ、3、4歳の時から言語学習を行うことが重要であることから、保育園からの英語活動にも力を入れている。</p> <p>西町インターナショナルスクールとの交流については、学校間の交流で終わらず、その後も交流が継続するような場を構築したいと考えており、そうした交流を通じて関係人口を創出し、移住・定住に繋がればよいと考える。また、世界に羽ばたく人材もそうした取組の中で生まれるのではないかと期待している。</p> <p>学校は地域に根差したものであると思うので、地域の皆様の協力の下、様々な地域行事に子どもに参加してもらい、教育ができればよいと思う。</p> <p>教育委員会での検討がまだ確定したわけではないので、意見があれば随時寄せてもらいたい。また、今後準備委員会が設置されるので、そうした場所でも意見交換を行ってもらいたい。</p>
意 見	<p>住民とすると、学校は絶対に地域に残してもらいたい。</p> <p>また、特色ある教育として幼少期からの英語教育に力を入れるということであれば、黒保根保育園も少人数になっているので、保育園と義務教育学校を併せて一貫校にした方がよいのではないかと考える。</p>
市 長	<p>そのとおりである。これまでの英語教育は小学校から始まっていたが、保育園からの幼児教育から始め、その後小中で一貫して実施できれば、子どもたちのその後に結び付くと考えられるので、非常に重要である。また、そうした体制が整備できれば黒保根地域の教育の大きな特徴になると考える。</p>
意 見	<p>近い将来、2、3年で子どもがいなくなってしまうかもしれない。</p> <p>繰り返しになるが、学校をなくさないでほしいというのが一番。学校がなくなってしまうと地域が廃れてしまう。また、若い世代が黒保根地域に移住してもらうには、近い場所に働ける環境が必要であるので、検討してもらいたい。</p>

市長	<p>先ほどの企業誘致の件に付け加えると、コロナ禍においてテレワークが進んでおり、インターネット環境があれば働ける職種もある。また、教育においては、ICT化が進んでおり、桐生市では児童生徒に各1台のタブレット端末を導入できるよう環境整備に取り組んでいる。</p> <p>企業誘致だけに限らず、黒保根地域の住環境を住むなら黒保根と思ってもらえるよう、アフターコロナにおける地方の生き方の一つとして、都内の人たちにPRし、若い世代の移住に繋げたい。</p>
意見	<p>先ほどの小中一貫校について、教育委員会内ではどこまで話が進んでいるのかが分からない。</p> <p>教育委員会に、決まっていることはどんなことでも保護者に伝えてほしいと伝えているが、現時点では何も報告することがないとのことであった。</p> <p>コロナの影響で検討が進んでいないということもあるだろうが、心配である。</p>
市長	<p>昨年の黒保根の地域懇談会においても、進捗状況等を丁寧に説明してほしいという意見があり、教育委員会にお願いしたところであるが、改めて話を伝えたい。</p>
意見	<p>家族での移住が難しいということであれば、寄宿舍を整備し、子どもを呼び込むことはできないか。今後の黒保根地域を考えると、そうした取組を進めないと子どもを集め、学校を維持していくことは難しいと考えられる。</p>
市長	<p>少子化については、黒保根地域に限らず、桐生市内、あるいは全国的な課題でもあるが、今年度、教育委員会内に学校の統廃合について検討するための部署を設置し、統廃合と存続のそれぞれのメリット・デメリットを検討している。</p> <p>今後、黒保根地域については、みどり市の東や大間々地域とも一緒になって、様々な可能性を検討していくことが必要になってくることが考えられる。</p> <p>そうした中ではあるが、今般進める黒保根の小中一貫校においては、学区を設けない方向で進めており、黒保根地域の特色ある教育を教育環境も含め市内外にPRすることで、児童・生徒を増やすことができる可能性はあるのではないかと考えているので、まずはその方向での検討を進めたい。</p>
意見	<p>黒保根の給食センターについて、例えば若い世代の調理実習の場にするなど、利活用を図れないか。英語教育だけで、人を集めるのは難しい事が考えられるので、地産地消の温かいおいしい給食が食べられるということも特色にできるのではないか。</p>
市長	<p>検討してまいりたい。</p>

意見	<p>小中一貫校により、縦のつながりができるのは良いが、高校に入ると人数が多く、馴染めないという問題が起こるので、小中学校のうちに市内やみどり市の他校の生徒との交流がもてるような取組を検討してほしい。</p> <p>また、中学校の部活が卓球部しかないので、文化部を作るなど、選択できるようになると良い。</p>
市長	<p>他校との交流は大事である。そのことはいろいろと研究していきたい。部活動については、いろんな学校と連合チームを作っていることもあるが、連合チームでは関東大会や全国大会に出られないということを聞いている。少子化が進む地方都市の共通の問題であると考えられるので、連合チームでもきちんと大会に出場できるよう、知事会や市長会等を通じ群馬県に要望するなど対応を検討したい。</p> <p>また、いくつかの学校を含めた地区の中で部活動が選択できるような仕組みを作れば、他校との交流もできるので検討したい。</p>
市長	<p>議題にある黒保根地域のバスの運行について、こちらから聞かせていただくが、地域の中だけの輸送について、ワゴン車やガソリン代は市が工面するので、運転や管理運営を地域のボランティアで行ってもらう制度については検討の余地はあるか。</p>
意見	<p>NPO による公共交通空白地域有償運送が無償ではないが既にあるので、福祉的な輸送は賄えている状況である。</p> <p>バスの件とすると、春から秋にかけては、黒保根地域と東地域に観光客が多数訪れるので、わたらせ渓谷鐵道の運行はあるが、時刻が限られているので、みどり市との間を行き交うバスがあると良い。</p>
意見	<p>黒保根村が桐生市と合併して 10 数年経つが、やはり、地域性は異なるので、それぞれの特性を活かした取組を行うべきであると思う。</p> <p>例えば修学旅行にしても人数の多い学校と少ない学校で画一的に行う必要はないと考える。少人数だからできることもあると思う。また、人数が少ないと旅行代が高くなることもあるので、交流を図るため他校と合同で行うことも考えられる。</p>
市長	<p>臨海子ども学校では、そうした対応を取っており、社会教育としての交流を通じマナーの向上も図られ、非常に良い取組であると考えている。学校教育ではなかなか難しい横の連携を、地域、育成会の協力により補ってまいりたい。</p>
意見	<p>近年、大規模な災害が各所で起こっており、黒保根地域は山間部が多く、色々と心配なところである。災害対策や防災に関する意識啓発等で何か取り組まれていることは</p>

	あるか。
市 長	<p>現在、職員が円滑かつ適切に避難所設営ができるよう、避難所開設運営マニュアルを作成している。また、市役所の建て替えについては、建て替え場所が浸水地域であることから、盛土を行ったり、雨水貯水槽を作るほか、1 階部分を駐車場にして 2 階から執務スペースにするなど、対策を行う予定である。</p> <p>また、防災に対する意識啓発に関しては、昨年の台風 19 号があった際には、ちょうどその前に群馬大学の金井教授による講演会を行ったところであったので、市民の危機意識が高くなっていったことから、大きな被害が出なかったのではないかと考えられる。やはり、危機意識を持ってもらうということが重要になるので、自主防災組織による避難訓練の実施なども通じ、危機意識を醸成できるよう取り組んでいきたい。</p>
意 見	薬科大学の誘致については、具体的な話はあるのか。
市 長	現時点では具体的な話はないが、薬科大学の立地条件や老朽化等に伴い移転先を検討しているといった情報にアンテナを立てながら、研究してまいりたい。
市 長	黒保根の林業において、桐生材を活用した CLT を作成するようなことは難しいのか。
意 見	<p>原木を切り出すことを行っているので、小規模な林家では難しい。</p> <p>林業の機器は高価であることに加え、危険を伴う作業であり、原木の材価が安く、労力と経費に係る割には見合った収入を得られておらず、小規模な林家の先々は厳しい状況であるので、そうした加工の行える大規模な業者を誘致してもらえるとありがたい。</p>
市 長	本日の意見をしっかり担当部署に伝え、今後の政策へ反映できるよう、検討してまいりたい。また、地域の発展は地域に暮らす皆様の力によってできるものと考えているので、もちろん行政も必要な支援を行っていくが、今後とも引き続き協力をお願いしたい。

5 閉会